

■第6回「しまねナイスパートナー」選定者一覧

※記載は受付順

氏名	住居地	推薦理由(地域活動・地域への貢献)	推薦理由(その他)	推薦者
1 いまおか けいこ 今岡 治子	出雲市 乙立町	<p>出雲市乙立地区民生児童委員や、出雲市更生保護女性会員を長年務め、現在では乙立遺族会会長に就任し、地域の女性リーダーとして活躍している。</p> <p>また、乙立地域の事業に積極的に参加し、地域に根ざした社会活動をするために結成した「もめんのか」の事務局長を務めている。地区の夏祭り、敬老会、文化祭などにボランティア参加するとともに、子どもとの交流を通じた高齢者の生きがいがいづくり活動などに、中心となって取り組んでいる。</p>	<p>地域のコミュニティセンター自主企画事業「子供によるまちおこし事業 “もち米づくり”」では、夫：盛義氏が苗づくり・田植えの指導を行い、その収穫祭では妻：治子氏が赤飯をつくり、子供たちに大好評であった。</p> <p>夫婦のあたたかい人柄と、豊富な知識により、地域の人からは良き相談相手として頼りにされている。様々な活動に夫婦で取り組む二人は、乙立地域ではなくてはならない存在である。</p>	荒木八洲雄 荒木 栄子
いまおか けいじ 今岡 盛義		<p>長年にわたり、乙立地区の公民館長、コミュニティセンター長として、地域の中心となって活躍するかたわら、豊富な知識を活かし「乙立郷土史」や「未来に神戸川の歴史を伝える神戸川史」の編纂にもたずさわった。</p> <p>また、現在は島根県登録観光ガイド「ふるさと案内人」として、立久恵峡の総合案内や、ふるさとの歴史についての講演を各地で行うなど、幅広い活動を行っている。</p>		
2 ささき くみこ 佐々木久三子	江津市 千田町	<p>平成15年度より読書ボランティアとして、地域の小学校へ毎週読み聞かせに出かけている。校区内の中学校では、図書館ボランティアとして、図書の整理、掲示、本の紹介など司書教諭の手伝いを行う。</p> <p>また、食生活改善推進員として、地域や市の食生活改善に関わる活動に参加するとともに、婦人会事業にも参画し、リサイクル活動等を行っている。</p> <p>また、江津市民生児童委員協議会の主任児童委員として、地域・児童・生徒の見守り活動に参加したり、江津市教育委員会の特別支援学級支援員として、地域の中学校に勤務するなど、地域活動へ積極的に参加している。</p>	<p>夫婦で合唱団に所属し、地域の病院・老人ホーム・公民館等へ慰問を行うなどのボランティア活動等で地域に貢献している。</p> <p>夫：卓氏の退職後、中山間地域の活性化を図るため、二人で元気・勇気・感動のシニアライブとして、平成22年8月に自宅を改装し、落ち着いた雰囲気の中でカレーを食べていただきたいとの願いを込め、「カレー家たく」を開店した。(土曜日と日曜日の11時～15時営業)</p> <p>店内では性別による役割分担にとらわれず、お互いを尊重し協力し合う二人の姿は、ほほえましく誰もが応援したくなるようなパートナーである。</p>	江津市長 (人権啓発センター)
ささき たかし 佐々木 卓		<p>地元の郵便局長として20数年勤め、平成21年3月に退職するまでの間、地元の行事に積極的に参加し、講演等を行う。</p> <p>また、地域活性化を目的とした地元の青年活動団体「加志岐会」に加入し、地域の美化運動などのボランティア活動を行っている。</p> <p>江津警察署少年捕導員として、青少年の防犯や健全育成に取り組むとともに、平成22年度からは自治会長を務めるなど、地域への貢献が大きい。</p>		

■第6回「しまねナイスパートナー」選定者一覧

※記載は受付順

	氏名	住居地	推薦理由(地域活動・地域への貢献)	推薦理由(その他)	推薦者
3	むらかみ ともえ 村上 巴	益田市 匹見町	<p>田畑が荒廃し担い手不足となる中、故郷に伝わるとちの実の加工に着目し、もち米に付加価値を付けて販売しようと、昭和61年に4組の夫婦で「内谷(うつだに)とちの実会」を結成し、その代表として活動している。地産地消の取り組みは地域の元気起こしにつながっている。</p> <p>現在は、農業委員、JA西いわみ理事等の要職にあり社会に貢献している。</p> <p>最近では、特産であるワサビに注目し、栽培経営するかたわら、交流人口の拡大を目的として、ワサビ収穫体験のイベントを地元自治会と一体となって2年連続開催している。今回は町内外から50名を超える多くの参加者があり、地域資源を大いにPRした。</p>	<p>平成12年から、匹見小学校の児童を招き「とちの実交流会」を開催している。ふるさと学習の一環として行われ、地域の子供たちと一緒にとちの実の皮むきや餅つきを行うことで、とちの実の加工技術を伝承するとともに、世代間交流を推進している。地域において、二人は中心的な役割を果たしている。</p> <p>夫婦の、お互いを尊重し、協力し合いながら地域づくり活動に取り組む姿は、高く評価するものである。</p>	益田市 匹見下地区 振興センター長
	むらかみ みね雄 村上 峰雄		<p>「内谷(うつだに)とちの実会」の活動を支えるとともに、専業農家として、水稲、畜産、ワサビ栽培の経営に当たっている。農地が年々荒廃する中において、農地及び集落の維持管理に努めるかたわら、民生委員として16年の長きにわたり地域に貢献している。</p> <p>中山間地域の限界集落にあって、耕作放棄地等が散在する中、農地の維持管理に努めている。</p> <p>また、平成21年6月に自宅で農家民泊「内谷(うつだに)とちの郷」を開業し、県内外の利用者に地域の食材を使った料理を振る舞い、大変喜ばれている。その実績は高く評価するものである。</p>		
4	ささき かずこ 佐々木 和子	松江市 雑賀町	<p>市職員としての長年の行政経験や豊富な人脈を活かし、退職後は民生児童委員協議会の事務局長として事務を一手に担っていた。現在は、松江第三中学校区小中一貫教育地域推進協議会委員として、学校教育へ尽力するかたわら、地域の高齢者見守り活動ネットワーク「ほっとさいか」の地域リーダーとして、問題意識・向上心を持って地道に活動を続けている。</p> <p>また、人権同和問題の課題解決のため活動する市民グループ「みずうみ交流会」の委員として活動を継続するなど、地元の地域振興、地域課題の解決に貢献している。</p> <p>平成19年からは、「行政相談委員」やその他公的機関の審議委員等として、専門的立場から相談を受けるなど、その能力を遺憾なく発揮している。</p>	<p>地元雑賀をこよなく愛する二人は、雑賀のまちづくりに貢献してきた。夫:武男氏は、元社会科教諭として知識が元々豊富であったが、改めて研鑽を重ね、史実に忠実な整理を行った。特に、堀尾公の功績等の研究について尽力した。</p> <p>武男氏は史実の整理を行う際には、現場へ赴き、自らの目で確かめることを基本としているが、その際には妻:和子氏と一緒に国内外へ旅する姿が見受けられる。</p> <p>雑賀地区のまちづくりのリーダーとして、地域を牽引する二人の二人三脚は、古きよき時代の日本の夫婦像をも彷彿とさせる。</p>	松江市 市民部長
	ささき たけお 佐々木 武男		<p>元中学校教諭であり、歴史・文化に造詣が深く、専門的知識を背景に地元雑賀のまちづくりの中心的役割として活躍している。人望が厚く、雑賀地区町内会連合会の会長として、地域課題の解決や地域の活性化に尽力している。</p> <p>雑賀地区は「歴史と教育の町」を掲げ、「雑賀まちづくり推進協議会」を組織し、地域資源を活かした明るいまちづくりを目指している。武男氏はその会長として、偉人の顕彰石碑を建立するとともに、教育資料館の開設、各種パンフレットの刊行、グッズの開発販売などを進めてきた。偉人を多く輩出した雑賀地区を広く知らしめ、まちあるきのできる町となるよう日々研鑽を重ねている。</p> <p>また、松江市の行財政改革推進委員会等の委員として、市全体のまちづくりに対し、その広範な知識を活かして多大な貢献をしている。</p>		